


2023年12月1日

恵庭市議会議長 長谷 文子様

NO.1

会 派 名 民主春風の会

代表者氏名 武藤 光一 

政務活動費結果報告書

恵庭市議会政務活動費の交付に関する条例第7条第1項に基づき、当派の2023年度研究研修結果報告書について、次のとおり報告します。

記

1 研究研修期間 2023年11月13日から2023年11月14日まで（2日間）

2 内 容

研究研修名	1, 地方議会活性化シンポジウム 2, 白子川地下調節池視察
研究研修会場	1, 東京都千代田区飯野ビル 4F 2, 東京都練馬区大泉
参加人員	1, 300人 2, 2人
研究研修内容	武藤光一、澁谷敏明
1, 地方議会活性化シンポジウム（11月13日）	<p>基調講演：谷口尚子氏（慶応大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授）</p> <p>将来の地方議会をになうのは誰か？ 地方議会の多様性を増やす方策・・・*住民の理解や関心を増やす *立候補のハードルを下げる *議会の在り方を考える*制度や 仕組みの改革 *議会・議員の意識改革 議会自身で改革することのジレンマを乗り越えていかななくてはならない</p> <p>パネルディスカッション コーディネーター：只野雅人氏（一橋大学大学院法学研究科教授） パネリスト：鶴川和彦氏（栗山町議会議長） *議員の学校→議員のなりて対策事業 パネリスト：狩野浩志氏（群馬県議会議員） *ぐんまシステムアップ・アカデミー→大学生との意見交換 パネリスト：菅沼芳徳氏（御殿場市議会議長） *明治大学とのパートナーシップ協定→高校での講義・意見交換</p>



パネリスト：益子純恵氏（那珂川町議会議長）

*なぜ女性議員が少ないのか→子育て、日常生活、家族の理解

2, 白子川地下調節池視察（11月14日）

対応：照井安則課長（東京都建設局第4建設事務所工事第2課）

事業の経緯：白子川下流地域の水害に対する安全度を早期向上させるとともに、調整池上流への護岸改修を促進するため、公共用地である目白通りの道路下を利用してトンネルを構築し、調節池として整備するものです。トンネルは延長約3.2Km、内径10.0mあり、白子川の洪水約21.2万 m^3 を貯留します。

調節池トンネル諸元：外径：10.6m 内径：10.0m 延長：約3.2Km

内空断面積：78.5 m^2 土被り：約35m

施工方法：泥水式シールド工法

覆工：嵌合方式コンクリート一体型

鋼製セグメント 厚さ0.3m

「考察」 *議員のなりて獲得は大きな課題です。議員の生活の保障、議員年金の制度化が必須と思います。

*調節池は都会ならではの水害対策でした。温暖化が進んでいるので、恵庭においても、地域にあった水害対策を講じておくことが大切だと思います。

視察研修先：東京都千代田区

視察研修項目：地方議会活性化シンポジウム

報告者：民主・春風の会 澁谷敏明

11月13日

地方議会活性化シンポジウム2023（千代田区内幸町2-1-1 イイノホール）

このシンポジウムは総務省が主催し、全国都道府県議会議長会及び全国市議会議長会、並びに全国町村議会議長会が共催し開催されました。

今春の統一地方選挙においては、女性の当選者の割合は過去最高となったものの、議員に占める女性や若者の割合は依然低く、投票率の低下や無投票の増加が見られ、議会への関心の低下や議員のなり手不足も指摘されていることから、幅広い人材の議会への参画や議員のなり手不足解消に向けてを趣旨として開催された。

1. 基調講演：谷口尚子氏（慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科教授）

○将来の地方議会を担うのは誰か？多様な人材が参画する地方議会の実現

～議会・議員の「多様性」「応用性」を高める必要がある。

○地方議会の多様性を増す方策

～議会による広報活動、主権者教育（住民の理解や関心を増やす）

○議会活動のあり方を変える

～活動スタイルを柔軟に、オンライン化

地方議会の「存在意義」を高めるために、議員の意識改革や議会内の意識改革など議会自身で改革することのジレンマを克服していく必要がある。

2. パネルディスカッション

コーディネーター：只野雅人氏（一橋大学大学院法学研究科教授）

パネリスト：

・ 鶴川和彦氏（栗山町議会議長）～「議員の学校」について（議員のなり手対策事業）

・ 狩野浩志氏（群馬県議会議員）～群馬県議会における若者の政治への関心を高める取組について

・ 菅沼芳徳氏（静岡県御殿場市議会議長）～未来議会プロジェクト（開かれた議会を目指して）

・ 益子純恵氏（栃木県那珂川町議会議長）～私はこうして議員になった（3児の母・経営者・議員の顔を持つ、三刃流女性議員）

【考察】

多様な人材の議会への参画やなり手不足について、全国各地でいろいろ取り組んでいる状況を教えていただいた。この課題に関しては、なかなか難しい問題と考えており、どこから取り組んだら良いか（兼職に関する制約の緩和、議員報酬水準の引き上げ、年金制度への加入等）工夫やアイデアを出しながら長いスパンで取り組まなければならないと感じました。

視察研修先：東京都練馬区大泉町
視察研修項目：白子川地下調節池
報告者：民主・春風の会 澁谷敏明
<p>11月14日</p> <p>白子川地下調節池視察（東京都練馬区大泉町）</p> <p>上記視察に対して照井安則氏（東京都建設局第4建設事務所工事第2課長）より説明を受ける。</p> <p>事業概要</p> <p>白子川地下調節池は、白子川下流域の水害に対する安全度を早期向上させ、調整池上流への護岸改修を促進するため、公共用地である目白通りの道路下を利用してトンネルを構築し、貯水池として整備するもの。</p> <p>トンネルは、延長約3.2km、内径10.0m、白子川の洪水訳21.2万m³を貯留。</p> <p>取水施設：川から洪水を取り入れ、地下のトンネルまで導く施設。（白子川取水施設、石神井川取水施設）</p> <p>調節池トンネル：取水施設から導水した洪水を貯留する施設。</p> <p>排水施設：調節池に流入した洪水をポンプでくみ上げて河川に放流する施設。</p> <p>管理棟：取水・排水設備等の運転操作や監視制御を行う施設。</p> <p>【考察】</p> <p>地下調節池視察では、大都市での水害対策を学ばせていただいたが、地方都市と規模が違い広範囲にわたって洪水対策を講じており、近年集中豪雨にも対応できていることに感心させられた。</p> <p>恵庭市においては昭和56年8月に集中豪雨と台風を立て続けに襲われ、河川の堤防決壊による洪水で住宅への浸水や田畑の冠水など大きな被害に見舞われましたが、いつ起きるかわからない災害に向けて被害を最小限にするために、改めて災害対策に取り組まなければならないと思いました。</p>